



ひろせホーム通信 2021年5月



千葉県小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）ひろせホーム 代表 廣瀬タカ子

新型コロナウイルス感染拡大防止のため東京都や大阪府などに発令された3度目の緊急事態宣言が5月末まで延長され、対象地域も拡大されることになりました。

新型コロナは依然として予断を許さない状況です。ひろせホームでは密集、密接、密閉の三密回避やマスク着用、アルコール消毒、十分な換気など、できる限りの感染対策を講じています。

もちろん子どもたちは、学校や幼稚園から帰ってきたら手洗い、うがいをしっかり行っています。これからも感染予防に力を注ぎ、新型コロナウイルスから子どもたちの未来を守っていきます。



ひろせホームの家族

Lちゃん・・・小学2年生の女の子。学校大好き。用事をお願いすると率先して動く。ホームの“お姉ちゃん”。

Rちゃん・・・幼稚園年少の女の子。目下のテーマはトイレトレーニング、早くごはんを食べること、お話すること。

KJくん・・・2歳の男の子。超マイペース。ホームの暴れん坊。

YIちゃん・・・9カ月の女の子の赤ちゃん。その笑顔に皆が癒されます。いつになったらハイハイできるかな。

ホームのお父さん、お母さんと、おばちゃん（お父さんお母さんの実子）、おじちゃん

KOくん（中3男）、YUちゃん（小6女）・・・おじちゃんとおばちゃんの実子

◆4月6日

YIちゃん今日から離乳食モグモグ期。うまく飲み込めなかったようで時折えずいていたが、喜んで食べていた。

◆4月14日

RちゃんがYIちゃんに対して話しかけたり笑いかけたりしていた。年下をあやす“お姉ちゃん意識”が芽生えているようだ。

◆4月16日

「ファミリーホームちば」会議にKJくん同行。会議中は近くの公園で駆け回っていた。移動中、いつもは車の最後方の席がKJくんの定位置だが、今回は一列前に。目に入る景色が違ったからか、車中でご機嫌だった。

トイレトレーニング中のRちゃん。「きちんとトイレできた？」と聞くと、こくりと頷いた。しかし後からトイレを確認すると水浸し(笑) まだまだトレーニングは続きます。

◆4月18日

Rちゃん4歳のお誕生日会。バースデーケーキに立てた4本のロウソクを一気に吹き消すのはまだ無理っぽい。ひろせホームの仲間に加えて、ホームで育ったお姉さんたちにも祝福され、Rちゃんはとても嬉しそうでした。

◆4月21～23日

YIちゃん発熱のため、Lちゃん21日から学校お休み。YIちゃんの熱が下がったので23日に登校しようと思ったら、今度はKJくん高熱。学校に行けず残念がっていたLちゃんでした。

◆4月23日

Y I ちゃんが寝転がった状態から座れるようになった。うつぶせから体を支えて上半身を起こすことはできるが、ハイハイはまだ時間がかかりそう。どうしても後ろに進んでしまいます。

◆4月24日

あちこちに散らかしたおもちゃを元の場所に戻すように言われたLちゃん。Rちゃんに片づけさせてたけど、言われたのは自分だよ。自分でも片づけましよう(笑)

◆4月27日

Y I ちゃん初めて歯磨きの練習。歯ブラシを口に入れられて「もっともっと」と喜んでた。歯磨きでお口の中がよほどスッキリしたのか、それともスプーンで離乳食を口に運んでいると勘違いしていたのか(笑)



『子どもの意思』

廣瀬タカ子

養育者として里親制度やファミリーホームに携わり、31年になります。この間、多くの子どもに愛情を注いできました。ただ、「子どもにとってこれでもいいのか」と時折考えることがあります。

親からの虐待や育児放棄、実親の病気、貧困や養育困難など、さまざまな理由によって親元で生活できない子どもの“受け皿”として、言うまでもなく里親やファミリーホームは重要な役割を担っています。

しかし、子どもの措置方針を決める際に、子ども自身の意思や希望は反映されていません。それはつまり、大人の判断を子どもに押し付けているだけではないだろうか、と誤ってしまいます。

もしかしたら、絶対に親から離れて暮らしたくないと子どもは思っているかもしれない。里親やファミリーホームで暮らすことになっても、実家庭からさほど遠くない場所を望んでいるかもしれない。

もちろん子どもの生命、身体を守ることを最優先しなければなりません。それと同時に、子どもの権利も守られるべきです。子どもの意思もできる限り尊重されるべきだと思います。

そのためには、児童相談所と子どもや実親、そして里親やファミリーホームの養育者、さらには地域の方々とのコミュニケーションが重要になってくるのではないのでしょうか。

われわれは子どもを育てるだけでなく、われわれ自身も子どもと一緒に成長していく必要があります。子どもにとってベストな環境をいかに構築するか。皆さんと情報共有しながら、これからも考えていきたいと思っています。



【ひろせホームが「情熱大陸」で

紹介されました！】

5月9日(日)放送のドキュメンタリー番組『情熱大陸』(MBS/TBS系)で、ひろせホームが紹介されました。

様々なジャンルで活躍する人物にスポットを当てるこの番組。5月9日放送分では「親元で暮らせない子どもたちに安らぎを」と題して、元気なホームの子どもたちやホームと地域の関わり、愛情を注いだ子どもとの別れ、ホームを巣立った子どもたちとの交流などが描かれていました。



番組をみた方々からは

「子どもが求めているのは無償の愛情。70人近くもの子どもたちを育てた廣瀬タカ子さんには本当に心から頭が下がる思い」(兵庫県、50代男性)

「子どもたちがイキイキとしていて、画面からホームの温かさが伝わってきました」(茨城県、40代男性)

「実親と離れて暮らす子どもは不憫だと先入観がありましたが、しっかり愛されていることを実感すれば心豊かに育つのだなと思いました」(広島県、40代女性)

「ホームで育った人が遊びに来ているのをみると、“我が家、で愛情をたっぷり注がれたことが分かりました」(兵庫県、40代男性)

「里親やファミリーホームに関心を持ち、番組視聴後にいろいろ調べました」(愛知県、30代女性)

「ホームを巣立った女性の『家族は信頼し合うものだと教わった』の言葉がすべてを物語っていると思います」(兵庫県、50代男性)などの感想が聞かれました。

この番組が社会的養護の拡大の必要性やファミリーホーム、里親への理解の深度化につながることを期待します。



一方で、

「ファミリーホームで子どもたちが安心して暮らせるのは児童相談所との連携が不可欠。少しでも児相の頑張りにスポットを当ててほしかった」

「子ども同士の相互交流によって人間性や社会性が養われるなど、ファミリーホームの意義にも触れてほしかった」(どちらも大阪府、50代男性)といった声もありました。

【編集後記】

ホームの運営に本格的に関わるようになって1カ月と少し。この間、同じ千葉県内でファミリーホームを営む方々と接する機会に恵まれました。毎日の苦勞を語る皆さんは、とてもイキイキとしていました。特に、今年に入って新たにファミリーホームをスタートさせた方の目が輝いていたのが印象的でした。

皆さんのモチベーションは何か。世のため人のため？ 社会貢献？ いや、そんな大げさなものではない。日本の未来を守るために、今の自分にできることをしよう。そして、子どもの成長に立ち会うことができれば幸せ。だからこの仕事(ファミリーホーム)に携わっている。そのように感じました。(S)

昨年6月、大阪で生活していた長女が孫2人を連れてこちらに拠点を移し、養育補助としてひろせホームの運営に携わるようになりました。

そして今年4月からは、娘婿(長女の旦那さん)も長年勤めた会社を辞め、ホームの事務などを手伝っています。

充実した体制で、子どもたちが基本的な生活習慣と豊かな人間性、社会性を養えるように、より家庭的な環境、“家族性、”が感じられる環境を引き続き目指していきます。

廣瀬タカ子